

九谷焼技術研修所 中期経営目標取組状況(令和6年度)

中期経営目標(実施期間 R5～R9)

- ① 本科の入学志願者数を定員の1.5倍に高めます。
- ② 研究科の定員充足率を70%に高めます。
- ③ 実習科の定員充足率を70%に高めます。
- ④ 本科から研究科への進学率を70%に高めます。

1 中期経営目標の進捗状況

測定指標	基準値	実績値(R6)	中間目標値(R7)	最終目標値(R9)
① 本科入学志願倍率	1.13倍	1.07倍	1.30倍	1.50倍
② 研究科定員充足率	33.30%	20.00%	50.00%	70.00%
③ 実習科定員充足率	64.40%	66.67%	70.00%	70.00%
④ 本科から研究科への進学率	42.90%	23.08%	60.00%	70.00%

2 令和6年度における主な取組内容

(1)施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取組

- ① 求められる人材の育成について
 - ・陶芸に関する技術・技能の修得だけでなく、原材料への理解やそこに付随する問題に対して知識を深めることを目的として工業試験場(九谷焼技術センター)の協力のもと、釉薬および無鉛絵具に関する実習の充実を図りました。
 - ・研修生が進路選択を考える際に参考となるよう、連合会の協力のもと業界講座の充実を図りました。
 - ・研修旅行の際に京都で陶芸を学ぶ研修生との交流会を実施し、産地の違いや制作に関する意欲の向上に努めることができました。
 - ・県内の美術館(九谷焼美術館・大樋美術館・国立工芸館・県立美術館)への団体鑑賞を実施し、所蔵品および企画展示について学芸員によるレクチャーを受講し、名品に対する理解と見識を深める機会を設けました。
- ② 研修生の確保について
 - ・九谷焼技術研修所の理解を深め新入生確保に繋げるために、夏のオープンキャンパスに追加して初めて秋にも実施しました。申し込みは完全予約制で電話およびフォームでの予約(10月・11名参加)を導入しました。現役研修生が所内案内(卒業制作・研修生の課題作品説明)・体験指導(ロクロ・上絵付)を実施。(8月・23名参加)
 - ・企画展を開催し広く九谷焼や研修所のPRに努めました。
 - いしかわ動物園での「九谷焼干支飾皿」・「動物の置物」展
 - しいのき迎賓館・金沢勤労者プラザ・能美市役所1フロビーでの作品展
 - ・県内の美術に特化したコースのある高校や短大・大学などを対象に、担当教官と面会し九谷焼への意識向上・PRに努めました。また、個別の入学希望者の見学受け入れ等を通じ、研修所のPRに努め入所志願者の増加に結びつくよう取り組みました。
 - ・入所生の多くはホームページを見て応募してくることから、研修生の公募展での受賞・卒業生の活躍状況をわかりやすく掲載し、アクセス数の把握にも努め、より入所希望者に魅力を感じてもらえるように努めました。また、近年は研修所を周知するきっかけとなるのはSNSの場合が多い傾向にある為、出来事・授業風景をこまめに発信し研修所の広報にも努めました。

(2)施設運営の効率化に向けた取組

- ・照明の間引き消灯、展示室についても利用者不在の時間帯は、消灯するなど、引き続き経費の節減に努めました。

(3)その他の取組 (1)、(2)以外の取組があれば記載

- ① 商品開発に向けた支援について
 - ・デザイン支援事業により、商品のデザイン性の向上およびラインナップの展開が向上し、それに合った販路開拓を支援すると共に産地の売り手(問屋、小売店)とのマッチングにより取引拡大を後押ししました。
 - ・デザイン支援事業成果品の展覧会
成果作品展『進化する九谷ー スパーク×破天荒ー』を開催しました。
- ② 就職支援について
 - ・九谷焼業界で就職希望の研修生については、企業派遣研修の実施をするほかに、研修生自ら企業訪問させ、積極的に自己アピールをするように指導し、担任も就職先に出向いて業界との情報交換をはかり、研修生の就職支援に努め、100%の就職率となりました。

3 令和7年度における取組内容の見直し等

- ・ホームページの更新では卒業生の活躍や研修所情報を掲載するとともに、SNSでの発信については課題の解説、講師の実習風景などを掲載するなど、コンテンツの差別化を図り内容の見直しや充実に努めます。
- ・県内の高校、短大、大学からの入所希望者を増やすため、近在の高校の就職指導・美術担当教諭との関係をより構築し働きかけを強化していきます。
- ・卒業生や九谷焼従事者の幅広い知識向上に資するため、デザイン支援事業においては技術力やデザイン力向上のほかに「経営」を見据えた「ものづくりから価格・販売」に向けた支援をこれまで以上の充実に努め、夏期講座では九谷焼業界や卒業生からの要望を取り入れた講座を開催します。
- ・引き続き、オープンキャンパスや秋の茶碗まつり等を通じた施設開放のほか、企画展の開催等を積極的に開催し、定員充足率の向上に努めます。
- ・研修所卒業生との連携については、研修所通信の発行を行い研修所の事業について情報提供を共有することで連携を図り、業界人である卒業生と共に九谷焼業界の発展に寄与できる体制づくりに努めます。

1 施設の利用状況

(1)利用指標(利用人数、稼働率などの状況)

※各学年4月学生数には、休学者、復学者含む。

【本科】

指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6	備考(増減理由等)
定員充足率	%	96.7	90.0%	86.7%	96.7%	93.3%	
総定員（各学年15人）	人	30	30	30	30	30	
各年度4月研修生数	人	29	27	26	29	28	
1年	人	14	14	14	15	15	
2年	人	15	13	12	14	13	
志願倍率（翌年度入学者入試）	倍	1.13	1.53	1.13	1.07	1.07	
志願者数	人	17	23	17	16	16	
合格者数	人	15	15	16	15	15	
就業率（進学者をのぞく）	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
卒業者数	人	12	12	11	13	13	
（うち進学者数）	人	(5)	(8)	(3)	(3)	(4)	
関連産業就業者数	人	7	4	7	10	9	
（うち県内）	人	(7)	(4)	(7)	(9)	(8)	

【研究科】

指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6	備考(増減理由等)
定員充足率	%	26.7	40.0%	60.0%	20.0%	20.0%	
定員	人	15	15	15	15	15	
各年度4月研修生数	人	4	6	9	3	3	
志願倍率（翌年度入学者入試）	倍	0.60	0.53	0.20	0.27	0.27	
志願者数	人	9	8	3	4	4	
合格者数	人	6	8	3	3	3	
就業率（進学者をのぞく）	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
卒業者数	人	3	5	9	3	2	
関連産業就業者数	人	3	5	9	3	2	
（うち県内）	人	(3)	(5)	(8)	(3)	(2)	

【実習科】

指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6	備考(増減理由等)
定員充足率	%	63.3	53.3%	70.0%	46.7%	66.7%	
総定員（各学年15人）	人	30	30	30	30	30	
各年度4月研修生数	人	19	16	21	14	20	
志願倍率（翌年度入学者入試）	倍	0.63	0.73	0.40	0.70	0.70	
志願者数	人	19	22	12	21	21	
合格者数	人	16	21	12	20	20	
卒業者数	人	18	15	16	14	8	

【デザイン支援事業】

指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6	備考(増減理由等)
参加人数	人	6	8	11	9	10	
デザイン検討会	回	7	7	7	7	7	
商品開発数	アイテム	6	8	11	9	10	

2 収支の状況

(単位：千円)

項目		R2	R3	R4	R5	R6
歳入	授業料	11,519	11,747	13,292	11,725	11,752
	入学検定手数料	510	606	386	406	386
	入学手数料	2,205	2,741	2,183	2,234	2,228
	開放講座受講料	42	75	113	101	91
	寄付金	0	1,000	0	0	0
	県債	0	0	0	30,000	2,000
	一般財源	77,795	80,855	82,848	78,284	84,997
	計	92,071	97,024	98,822	122,750	101,454
歳出	職員費	63,583	66,212	66,983	61,017	64,824
	運営費	9,896	11,269	10,282	11,060	12,599
	研修事業費	17,918	18,328	19,020	18,064	18,317
	開放講座開催費	674	706	744	668	553
	体験見学会開催事業費	0	0	0	0	0
	研修所整備事業費・大規模修繕費	0	0	44	0	0
	研修所整備費	0	509	1,749	31,941	5,161
	計	92,071	97,024	98,822	122,750	101,454

3 利用者1人あたりの一般財源投入額

		R2	R3	R4	R5	R6
一般財源投入額(千円) ①		77,795	80,855	82,848	78,284	84,997
	職員費を除いた額(千円)①'	14,212	14,643	15,885	17,267	20,173
利用者数(人) ②		52	49	56	46	51
利用者1人あたりの一般財源投入額(円) ①÷②		1,496,058	1,650,102	1,479,429	1,701,826	1,666,608
	職員費を除いた額(円) ①' ÷ ②	273,308	298,837	283,661	375,370	395,549